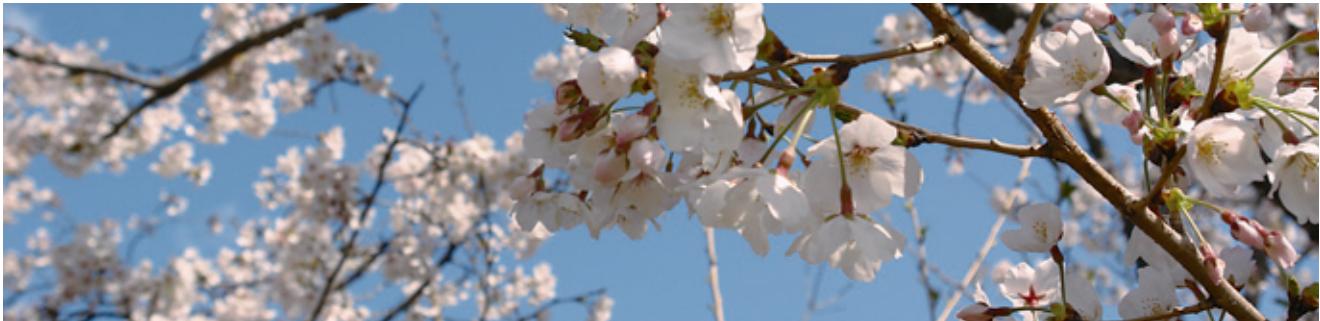




あなたが作る キャンパスライフ





新入生に向けての歓迎メッセージ

～山口大学から未来が見えてくる～

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。少しずつ暖かくなってきた春の日差しを浴びながら、キャンパスライフへの期待に胸を膨らませていることと思います。

皆さんは、山口大学に入学して何を学び、身に付けて卒業し、社会人として貢献しようと願っておられるのでしょうか。皆さんの希望は山口大学で達成されるのでしょうか。今は、入学の喜びとこれから的学生生活に対する不安が混じった複雑な気持ちでおられるのかもしれません。

しかし、全く心配はいりません。山口大学の理念は『発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場』です。自分の驚きや個性・能力、出会い、夢を発見し、勉学しながら人間力を育み、社会人としての自分をかたちにするという思いが込められています。山口大学には、新入生の皆さんと『共に力を合わせ、共に育み合い、共に喜びを分ち合える』優秀な先生、職員、先輩方がいます。大学では受動的な学習ではなく、自ら積極的に勉学し、先生方に疑問や質問を投げ返し、キャッチボールをしながら共に育つことが求められます。この『共同・共育・共有の精神』（山大スピリット）を育ててください。きっとその不安な気持ちはなくなるはずです。

また、山口大学は十分な研究設備や実験機器など、勉学、研究を行うための環境も整っています。留学のプログラムや、就職・キャリア支援も充実しています。キャンパスのある山口市、宇部市は大都会ではありませんが、勉学と人間形成をするには、もっ



学長
丸本 卓哉

てこいの環境です。

キャンパスライフに求められることは、講義室で学問の知識を身に付けることだけではありません。サークル活動や地域でのボランティア活動のような授業外の場で、自分から意欲的に行う活動によって人間性を養い、ときに訪れるさまざまな難題に立ち向かうことで精神を鍛錬することも大切です。一緒に活動した友と心から喜び合えるようなかけがえのない経験が皆さんにもできるはずです。

皆さんが快適で充実したキャンパスライフを送ることができるよう、山口大学は支援を惜しみません。チャレンジ精神富む積極的な活動を大いに期待し、キャンパスライフが充実した実りあるものになること、そして皆さんの未来がすばらしいものになることを祈念して、お祝いの挨拶といたします。

新入生に向けての歓迎メッセージ

「今」を生きるための教養について



岩部 浩三
大学教育センター長
人文学部教授

ご入学おめでとうございます。希望をかなえて人生の新しいステージに立たれた皆さんと一緒に、夢や希望を実現するはどういうことかという視点から、大学の専門教育と教養教育の大切さを考えてみたいと思います。

一言では言えない「今」

私は大学の教員ですから、英語でI am a teacherと言えます。また、将来教員になりたいと思っている人はI want to be a teacherと言えます。これはIt is a teacher that I want to beと言い換えることもできます。ところが今の私の状況については、同じ形でIt is a teacher that I amとは言えません。日本語でも「私のなりたいものを一言で言えば、それは教員です」と言えるのに対し、「私が今そうであるところのものと言えば…」と言おうとしても一言で言い尽くせないところにその原因があります。たしかに今の私には、教員であるほかにもさまざまな側面があります。

「夢」の実現とともに

新入生の皆さんも、山大生になると同時に、一人暮らし始まり、新しい友達と出会うなど、さまざまなことが周りで起こっているはずです。将来、夢をかなえて希望する職業に就いても同じです。直接関係のあることもまったく無関係なことも、どこからともなく流れ込んで、多面的な「今」として実現することでしょう。金メダルという夢をかなえたスポーツ選手にも現役生活の終わりはやって来ますし、突然の怪我で不本意なまま引退することもありますが、これらは夢や希望の中にはなかったことでしょう。もっと普遍的に言えば、老化や死が将来の希望である人はいないでしょう。しかし、それらは必ずくることですし、すでに始まっているとも言えます。

多面的な「今」を生きるために

このように「今」の中には、実現した夢だけでなく、楽しいことも嫌なことも余計なことも中途半端なことも一緒に入り込んでいます。この多面的な「今」を生きることを手助けしてくれるのが教養ではないでしょうか。大学教育の中では、専門教育と教養教育という分け方がなされています。専門教育は、自分の希望をかなえるのに役立ってくれるでしょう。将来に夢を抱き続け、その実現にまっすぐ向かうことはとても重要なことです。その一方で、「今」をより深く考え、さらに一歩踏み出すためには教養が必要です。山口大学で学ぶ教養が、皆さんの「今」と将来の「今」においてお役に立てることを願っています。

▶ 学内連絡先
大学教育センター長室
TEL : 083-933-5052
E-mail : iwabe@yamaguchi-u.ac.jp

～共通教育の仕組み教えます～

単位修得の上で知っておくべきこと

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これからは、学校が準備した高校のカリキュラムとは違い、大学では履修規則(カリキュラム)に従って、皆さん自身が1週間の時間割を組み立て、また、4年間(医学科・獣医学科6年間)の勉学のカリキュラムを設計し、卒業に必要な単位(共通教育科目と専門科目)を修得しなければなりません。自身の履修計画を立て、授業を受けることは初めての経験だと思います。そこで、知っておくべき基本的なこと(①学期・授業時間、②授業期間、③単位の基準、④履修登録・成績評価)についての説明をいたします。履修方法・カリキュラムの詳細につきましては、皆さんのが所属する学部オリンエンテーションで説明しますので必ず参加してください。

① 学期と授業時間

学期は、1年間を4月1日から9月30日までを前学期(前期)、10月1日から翌年3月31日までを後学期(後期)の2学期に分けています。1日の授業時間は以下のとおりです。

1・2時限	8:40~10:10	3・4時限	10:20~11:50
5・6時限	12:50~14:20	7・8時限	14:30~16:00
9・10時限	16:10~17:40		

※ 各授業時間を通称「コマ」という言い方もあります。例えば月曜日の1・2時限のことを月曜日の1コマ目、3・4時限のことを2コマ目といいます。

② 授業期間

上記学期の中にそれぞれの授業期間を設けています。平成21年度の授業期間は、前期は4月9日～8月5日、後期は9月28日～2月8日の期間です。8月6日から9月27日までは夏季休業で、12月25日から1月7日までが冬季休業です。21年度の後期授業が、9月28日から開始されるのは、授業時間を確保するためです。

③ 単位の基準

大学における学修を数量的に示すものとして、「単位」という言葉が用いられます。

単位の標準としては、45時間の学修を必要とする内容をもって構成される授業科目に1単位が与えられます。この45時間は、大学の教室等における授業時間と授業時間外の自宅学修(予習・復習)との和を表しています。

単位の基準(大学の教室等における授業時間)については、講義、演習は15時間の授業をもって1単位とし、実験、実習および実技については、30時間の授業をもって1単位とします。各授業形式と授業時間と単位数の関係は以下のとおりです。

授業形式	1週間あたりの授業時間数	学期あたりの単位数 (1学期=15週)	備考
講 義	2時間	1 / 2学期 1単位	
	2時間	2単位	
演 習	2時間	2単位	
	4時間	1 / 2学期 1単位	医学部、工学部
実 験	4時間	2単位	理学部、農学部
	2時間	1単位	
外 国 語	2時間	1 / 2学期 1単位	
	2時間	2単位	



気軽に
相談して
ください

山崎 行宏

学生支援部教育支援課
共通教育係長

④ 履修登録・成績評価

授業を受けるには、履修登録期間中に授業科目の履修登録をしなくてはなりません。

履修登録方法は、パソコンからWebブラウザを利用して授業科目の登録をします。

その際にシラバス(授業の内容、成績評価方法)も閲覧可能です。履修登録期間中は、履修登録の追加・修正が可能です。また、登録内容の参照・印刷も可能です。

成績は、各授業科目担当教員の成績評価方法(試験、レポート、課題、出席状況など)によって、100点法により算出され担当教員の評点に基づいて評語でお知らせいたします。その評語が「可」以上であれば合格で、単位修得したことになります。

合否	評語	評点
合 格	秀	100点～90点
	優	89点～80点
	良	79点～70点
	可	69点～60点
不格合	不可	59点～0点

以上、簡単ですが、知っておくべきことについての説明をしました。皆さんのが学習する際に、最初に出会う学問が「共通教育」です。共通教育係では、主に共通教育の「授業・試験」、「成績処理」、「履修手続」、「修学指導・修学相談」に関する業務をしており、共通教育における履修方法等で何か分からないことや困ったことがありますたら気軽に相談してください。

▶問い合わせ先

学生支援部教育支援課共通教育係
TEL : 083-933-5050・5055
E-mail : ga133@yamaguchi-u.ac.jp

～学生生活をがっちりサポートします～

奨学金・授業料免除について

日本学生支援機構奨学金について

本学において、最も多くの方が利用している日本学生支援機構の奨学金は、経済的理由により修学が困難である優れた学生に対し貸与されます。貸与制の奨学金ですので、卒業後は返還の義務が生じ、決められた金額を毎月返還していくことになります。家庭の経済状況やあなたの生活設計に基づき、本当に奨学金が必要であるか、卒業したあと滞りなく返還していくことができるのか等をよく検討してから、申し込みましょう。奨学金には、第一種奨学金と第二種奨学金があります。第一種奨学金は無利子の奨学金です。第二種奨学金は卒業後、年3%を上限とする利子付き（利率固定方式と利率変動方式の選択制）の奨学金です。貸与月額は、第一種奨学金で自宅通学者は45,000円、自宅外通学者は51,000円となっています。第二種奨学金の貸与月額は、30,000円・50,000円・80,000円・100,000円・120,000円から選択できるようになっています。

その他の奨学金について

地方自治体や財団法人の運営する奨学金制度について説明します。

給付と貸与の種別、金額、応募条件等は、奨学金制度によってさまざまですが、地方自治体の運営する制度の多くは、経済的に困窮し、成績優秀であるその地域出身の学生に、特定の金額（月額4万円～5万円）を無利子で貸与するというものです。

大学を通して募集する団体以外にも、直接募集を行っている団体も多数ありますので、出身地の教育委員会に照会してください。



鬼塚 久典
学生支援部学生支援課学生サービス係
一般係員

授業料免除について

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる人には、本人の申請に基づき選考の上、半期分授業料の全額または半額を免除する制度があります。

免除は、家庭の経済状況等により困窮度の高い人から、全額免除又は半額免除に決定されますが、申請者全員が免除されるとは限りません。

特別待遇学生制度について

在学中の学業成績が特に優れ、かつ、人物優秀であると認められる人について、各期分の授業料を半額免除する制度があります。この制度では、前期・後期毎に、各学部各学年2人以上（医学部・農学部の5・6年生については各学部各学年1人以上）が、各学部長の推薦に基づき選考されます。（在学中に制度が変更となる可能性もあります。）

▶問い合わせ先

学生支援部学生支援課学生サービス係
TEL : 083-933-5165 E-mail : ga113@yamaguchi-u.ac.jp

～学生生活をEnjoyしましょう～

課外活動について

課外活動を行う団体について

本学には、学生の自主的な課外活動を行う団体として「体育会」、「文化会」、「大学祭実行委員会」の3団体があり、大学の公認団体として取り扱っています。それを構成するサークルとして、体育会公認サークルが36サークル、文化会公認サークルが16サークルあり、学生自らの手で運営し、それぞれの目標に向かって、日々活発に活動しています。公認サークルの他にも、同好会・愛好会として60以上のサークルが独自の活動を行っています。

また、小串地区（医学部）、常盤地区（工学部）においても、学生自治団体が組織されており、全学の体育会や文化会と一緒に活動しているサークルや、独自に活動しているサークルなどがあります。

体育会について

本学の体育活動は、学長を名誉会長とした山口大学体育会を中心に活動しています。毎年開催される中国五大学学生競技大会、中国地区学生リーグ戦、県内外の各種大会に参加するなど活躍しています。また、体育会企画として体育活動の活性化のため各種スポーツマッチを開催しており、サークル同士での交流も深めています。

文化会について

本学の文化活動は、山口大学文化会を中心に多彩な活動を展開しており、音楽系サークルの定期演奏会や演劇等の定期公演では、学生はもとより一般市民からも親しまれています。また、毎年開催される中国・四国地区国立大学音楽美術連盟演奏会および美術展覧会に参加し、中四国地区国立9大学間の交流に大きな成果を挙げています。



浦部 美沙
学生支援部学生支援課学生サービス係
一般係員

大学祭実行委員会について

吉田地区の大学祭（姫山祭）および新入生歓迎フェスティバルは、山口大学大学祭実行委員会を中心に企画・運営されており、姫山祭は、近郊から多くの市民の方々も足を運ばれています。また、新入生歓迎フェスティバルでは、先輩が新入生を迎える場として山口大学のほぼ全てのサークルが新入生のクラブ部員獲得のアピールを行います。今年は**4月11日(土)12時**から行います。各サークルのPRステージや体験コーナー、巡ってbingoなど他にもさまざまな企画を予定していますので、奮ってご参加ください。

▶問い合わせ先
学生支援部学生支援課学生サービス係
TEL : 083-933-5165
E-mail : ga119@yamaguchi-u.ac.jp

先輩たちが
キャンパスライフを
教えます。

HAPPY LIFE

人文学部人文社会学科 社会情報論コース3年
佐々木 文緒

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。期待と不安でいっぱいだとは思いますが、これから私たちと一緒に頑張っていきましょうね。

☆サークル熱中LIFE☆

私の大学生活はというと、サークルに命を注ぐと言っても過言ではない程、サークルに熱中しています。私はよさこい踊りサークルに入っています。昨年11月の代の交代までは踊りの練習を仕切る役目を担っていました。毎年変える新曲について考えたり、毎回の練習メニューを考えて約80人の前に立って練習をしたり…毎日毎日よさこいの事で頭がいっぱいです、正直逃げ



よさこい踊りのサークルの仲間たちとともに
(上から二段目の左端が筆者)

各学部学生からの歓迎メッセージ

人文学部

出したくなるくらい大変な時期もありました。しかし、困難も仲間と共に乗り越えることで、絆はより一層深まりました。結果として昨年の楽曲では佐世保で行われた祭で決勝進出＆入賞、そして福岡で行われた祭でも決勝進出を果たし、110チーム中9位という成績を残すことができました。今は役職からも退いて前ほど大変な毎日を送っているわけではありませんが、よさこいLOVE精神で練習に励んでいます。

☆人文LIFE☆

私は人文学部で社会学を専攻しています。ゼミでは地域活性化について学んだり、社会問題についても議論したりします。高校の時から地域や社会の諸問題について興味があったので、とても充実した学習ができます。人文学部では、学生たちがゆったりとした静かな環境の中で、有意義に自分の時間を過ごしています。

勉強も大切ですが、一人暮らしはお金が必要です！多くの学生がアルバイトをしています。勉強・サークル・アルバイトの3つを上手く両立させて、最高の大学生活を送ってください。

☆みなさんへ☆

大学生活はこれまでとは違って、自由に使える時間が沢山あります。自分で計画を立て、いかにその時間を有効に活用できるかはあなた次第です。勉強に打ち込むのもよし。サークルを一生懸命頑張るのもよし。アルバイトを頑張ってお金を貯めるのもよし。何をどう頑張ってもいいと思います。自分だけの夢中になれる何かを探して頑張ってください。みんなの大学生活がHAPPYなものになりますように…。

無限の可能性を秘めた大学

教育学部 総合文化教育課程
文芸・芸能コース 3年
坂本 祥

☆学び☆

私は、文芸・芸能コースに所属しています。「文芸・芸能って何をするところ？」とよく聞かれますが、私は「何でもできるところだよ」と答えています。実際に学んでいることはとても多種多様で、美術史、映画史、音楽史、言語学、英米文学、哲学、国文学など、日本の「文芸」や「芸能（芸術）」について幅広く学んでいます。

3年生からのゼミでは、私は美術ゼミに所属して先輩たちの卒業研究を聞いたり、自分たちの研究の参考になるような論文を読んだりしています。私は「大和絵」に興味を持っているので、これから1年をかけて深く研究していきたいと考えています。

☆夢を☆

もちろん文芸・芸能コースは教育学部のコースですので、教員免許を取ることができます。私は国語教師を目指しているので、それに向けて単位を取得してきました。このコースでは、中学・高校の国語教員の免許を

教育学部

取ることができるのですが、努力次第で他校種の免許を取ることも可能です。私は小学校教員の免許取得も考えており、授業時間は多くなりますが、充実した毎日を送っています。

小学校課程の授業も、教員になる上で勉強になることがたくさんあります。積極的に授業を受けることで、将来の夢がより具体的で明確なものになっていくを実感しています。



☆新入生の皆さんへ☆

私は大学に入る際、国語について専門的に勉強したいと思っていましたので、このコースでは満足できないのではないか、と正直不安でした。しかし、私の心配は杞憂に終わりました。大学というのは高校のように決められたとおりに勉強しなくてもよいのです。大学の勉強は自分が求めれば求めるほど、どんどん知識を得ることができます。大学での生活は無限の可能性に満ちています。新入生の皆さんもこの可能性をどんどん広げて、有意義な学生生活を送ってください。

各学部学生からの歓迎メッセージ

経済学部

山口大学での生活

経済学部 経営学科 3年

兵頭 杏奈

☆山口について☆

私が山口大学に入学して3年が過ぎました。正直に言うと、初めて山口に来た時にはあまりの田舎具合に驚いたものでした。周りを見渡せば田んぼだらけ、遊ぶところもなければ交通の便も悪いし、おまけに街灯が少ないためか夜になれば真っ暗…。こんな山口での生活に不安を感じていましたが、今ではのんびりした雰囲気の中での暮らしが気に入っています。このような環境の中にいる山口大学は緑が多く、なかなか過ごしやすい大学だと思います。

☆授業☆

大学での講義は高校生の頃までとは違い、必修科目のほかに自分で興味のある科目を選択し時間割を考えなければなりません。友達と同じ科目を選択して一緒に講義を受けたり、自分一人で講義に没頭したりすることもできます。また、時間割の組み方によっては、土日以外にも休みの日を作ることが可能になります。大学の講義は規模もさまざままで、学年が上がるにつれてより専門的なものになっていきます。「単位が足りなくて卒業できない！」ということにならないように、しっかりと単位を取っておきましょう。

☆学生生活☆

大学生には、とにかく自由な時間がたくさんあります。勉強はもちろん、アルバイトやサークル活動をしたり友達とおもいっきり遊び回ったりして、時間を無駄にしないように過ごしてください。大学4年間は長いようであつという間です。どのような学生生活になるかは本人次第です。学生の時にしかできない事もありますし、興味を持ったことにはどんどんチャレンジして充実した学生生活を楽しんでください。



友達との沖縄旅行で（後列右・筆者）

新入生の皆さんへ

理学部 数理科学科 4年

種田 真士

☆山口大学へようこそ！☆

私が大学に入学したとき、これからどんなキャンパスライフが待っているのか、期待と不安で胸がいっぱいでした。大学生活では、一人暮らし、アルバイト、サークル活動、…何から今まで新しい夢がたくさん詰まっています。山口という豊かな環境の中で学べる幸せをどうぞ堪能してください。

☆大学生活について☆

大学では、一定の制限内で一人ひとりが違う授業計画を立てることができます。自分に必要だと思われる授業、興味のある学問など、貪欲に修学してください。

高校生活と違うところは、自己責任において生活をするということです。大学生活では、さまざまな方向へ人脈が広がっていきます。それに伴って、多種に渡った情報も入ってきます。正しい目を養う為にも、失敗を恐れず人々とかかわりを持ち、他の中の自分と向き合いながら成長していくください。

理学部

☆困った時は☆

一人暮らしが始まると、精神的に不安定になったり、体調を崩したりする人も出てきます。そういう時は、大学では保健管理センターや学生相談所などがあり、先生やカウンセラーが親身になって診てくださいます。また、3年次から始まる就職活動においても、就職支援室で相談できます。困った時はこのような大学施設をどんどん利用してください。



☆最後に☆

大学生活で自己能力を開花させるには、自身のたゆまぬ努力と向上心を常に持ち続けることが大切だと思います。自分に語りかけ、友人と相談し合い、先生に質問をしたり、四苦八苦することで本当の楽しみを味わうことができるのです。10年後、20年後に振り返って、笑顔で語れる素晴らしいキャンパスライフを手に入れてください。

各学部学生からの歓迎メッセージ

医学部

夢へ向かって…

医学部 医学科 2年

相川 智美

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！これから約4年間、あるいは6年間の大学生活へ向けて、期待や不安で胸をふくらませていることと思います。そこで、山口大学医学部での大学生活はどのような雰囲気なのか、簡単ではありますがご紹介したいと思います。

☆濃密なカリキュラム☆

将来、人命を預かる職業に就く学生の集まった医学部の授業は、山大の中で、最もハードだと言っても過言ではないでしょう。私の在籍する医学科では、系統立てられた授業が行われ、ユニットが終わるたびに試験が実施されます。ほぼ毎週試験に臨むというのはとても大変ですが、そのおかげで、習ったことの知識の定着がすぐにでき、医師になるというモチベーションも意識できます。また、医学部では、講義を受けて知識を身につける以外に、実際に医療人として働く際に大切なことを学ぶ実習も行います。私自身、人体の構造を学ぶために、自分の手で解剖をする実習を経て、とても貴重で有意義な体験ができたと感じました。この

ように、毎日とても濃い時間を過ごすことができるのです。



☆頼もしい仲間たち☆

皆さんが入学されると、医学部の学生がとにかく明るいことに、イメージとのギャップを感じる人がいるかもしれません。その理由は、ハードな毎日を共に過ごす仲間の存在にあるかもしれません。医療に携わる夢を持って集まつた仲間とは、刺激しあい、支えあって、冗談を言って笑いあえる、なくてはならない存在です。さらに、勉強だけでなく、部活動などでそれぞれの趣味に思いっきり打ちこんでいることも、もうひとつの理由でしょう。その中で生まれた先輩や後輩との絆は、卒業後も、大きな財産となるはずです。

☆最後に☆

大学生活は、目の前のことだけに受け身でいると、きっとあっという間に過ぎてしまうと思います。山大で出会えた仲間と切磋琢磨しながら、恵まれた環境の中、夢へ向かって毎日をエンジョイしてくださいね！

医学部

大学生活を楽しめ!!

工学部 感性デザイン工学科 3年

GAO JING

☆興味があるものはどんどんチャレンジだ！☆

大学生のうちにできることはやっておいたほうがいいです。大学は社会人になる前の練習の場といえます。たとえ無謀な挑戦でも、前へ進んでみることをお勧めします。なぜなら、大学生になったあなたには無限の可能性があるのだから。私の場合、大学では時間の許す限り新しい事へ挑戦しました。サークル活動、大学行事の企画・運営。涙もありました。でも、最後には仲間と笑って終わることができたことを本当に嬉しく思います。

☆出会いは人を成長させる！☆

人は一生の間でたくさんの人と出会います。その中でも学生時代の出会いは特別なものであるといえます。出会いから学べるものは人生の中でも大事な財産になります。出会いには、笑いあり、涙あります。でも、そんな中で会える仲間はきっとあなたにとってかけがえのない宝になります。

たくさんの人の出会い、私にとってそれはかけがえのない宝です。

☆何事も責任を持って挑もう！☆

大学生になったあなたはもう高校生の時と同じように何事においても子どもだからではすまなくなります。大学生は大人という目で見られます。何事も責任を持



昨年オープンキャンパスを盛り上げた学生スタッフとともに
(右から2番目筆者)

ち最後までやり遂げるよう心がけることをお勧めします。当然、新しいことへの挑戦は難しいです。パンドラの箱は開けてみなければ分かりません。挫折しそうになることは幾度もある、でも、成功後の達成感は最高のものとなります。成功の達成感は勝者にしか味わえない味です。

私は山口大学に入学できたことを本当に嬉しく思います。なぜなら、山口大学は私を成長させてくれました。だから、自信を持ってあなたに言えます。山口大学に入って間違いない！あなたの明日はここから切り開かれていく！

工学部

工学部

各学部学生からの歓迎メッセージ

農学部

大学生活について

農学部 生物機能科学科 3年
濱本 隆史

☆はじめに☆

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。苦しかった受験も終わっていよいよ大学生活の幕開けですね。これから始まる大学生活を前に希望や不安で胸が一杯だと思います。大学は社会に出る前の最後の学生生活を送る場になりますので、卒業するまでの時間をして充実したものにしてもらいたいです。

☆部活動、サークル活動☆

山口大学には県内の人々はもちろん、県外から多くの人が来ていますので、サークルや部活に入るといろん人に出会うことができます。私は、準硬式野球部に所属しておりますが、本当にこの部活に入ってよかったですなと思っています。熱い仲間と共に目標に向かって過ごした時間はとても良い思い出になっています。

また部活動を通して得た仲間や経験は一生の財産になると思います。部活やサークルは大学生活をより濃くしてくれるものだと思いますので、皆さんも是非入ってみてください。



☆勉強について☆

私の所属している農学部生物機能科学科は、1年生のときは共通教育科目がメインですが、2年生から専門教育科目や実験が入ってきますので、1年生のうちにできるだけ共通教育科目の単位を取っておいたほうがよいと思います。皆さん部活動、サークル活動、アルバイト、遊び、などなどやりたいことがたくさんあると思いますが、時間を上手に使って勉強も一生懸命頑張ってください。

皆さん、素晴らしい大学生活が送れるように頑張ってください。応援しています。

留学生

留学生からの歓迎メッセージ

大学院東アジア研究科 博士課程2年
中国人留学生学友会会長

田 問耕 (デン モウコウ)
TIAN WENGENG

☆日本人の新入学生へ☆

入学おめでとうございます。みなさんはきっと緊張や興奮した気持ちを持って、人生の新たな段階に飛び込んだことだと思います。皆さんは長期間努力し山口大学に入学する夢を実現しました。今後、学問を深めると同時に、各方面でもきっと新しい理想を見つけ、すばらしい大学生活を送ることだと思います。山口大学には留学生がたくさん在籍していますので、授業や部活などで、いろいろな国からの異なる色の皮膚と生活習慣を持った留学生に出会うことでしょう。国や地域を問わず、留学生も皆さんと同じ楽しい夢を持っていますので、積極的に国際交流に参加してみてください。山口大学の在籍中に、すばらしい思い出を留学生たちと一緒に残しましょう。



☆新留学生へ☆

入学おめでとうございます。同じ留学経験を持つ私は、皆さんが初めて日本に来たときの複雑な気持ちがよくわかります。目の前の困難は喜びよりも大きいと思いますが、皆さんは留学生活に早く慣れ、楽しく享受し始めると思います。なぜなら、皆さんを手助けしてくれる人たちがたくさんいるからです。私たちにとって勉強は最も重要なのですが、国際交流あふれる環境で、いろいろな国の友達と付き合い、それぞれの国の文化や事情を理解しあうことも大切です。日本に留学したからには、学業を修め、自分の夢を実現できるように頑張ってください。

☆中国人留学生学友会の紹介☆

山口大学中国人留学生学友会は、未来の中日両国の友好関係を発展させることを目的としています。皆さんのご参加とご活躍を心から望んでいます。

各位新入学の日本同学们:

大家好，欢迎来到山口大学。

相信大家现在怀着既紧张又兴奋的心情迈进了自己人生的一个新的阶段。你们都是通过严格的选拔，经过了长期不懈的努力，最终实现大学梦想的优秀人才。在今后的丰富多彩的大学生活里，不但可以在学业上更上一层楼，在其他各个方面也一定会找到自己的新的理想，创造出精彩的人生。随着外国留学生的不断加入，相信大家一定会在课堂，学校社团活动，打工生活等时候遇到来自不同国家，有着不同肤色，生活习惯的外国留学生。因为家都有着同样快乐的梦想，让我们从现在开始都积极地以多样的方式参与国际交流，在山口大学的4年里，和各国的留学生一起留下属于自己也属于世界的精彩的回忆。

各位新入学的留学生:

大家好，欢迎来到山口大学。

同样有着留学经历的我可以深切地体会到大家刚刚来到日本的复杂的心情。虽然面前的困难大于欣喜，但是相信大家能够很快的适应并开始愉快地享受留学生活。在这样一个充满异国色彩的环境中，我们会快乐地结交各国的朋友，让他们了解自己国家的丰富多彩的同时也不忘体会各国的风土人情。相信对大家来说困难是一时的，因为关心我们的人无处不在。作为一名独自来到异国他乡闯荡留学生，我们的使命就是顺利完成学业，实现自我飞跃。我们必须以我们的自信和坚毅克服种种困难，用我们的活力和热情去感动世界。

中国人留学生学友会介绍:

山口大学中国人留学生学友会以发展中日两国友好为宗旨，真诚地希望大家的加入。



YAMAGUCHI UNIVERSITY

山口大学

吉田キャンパス

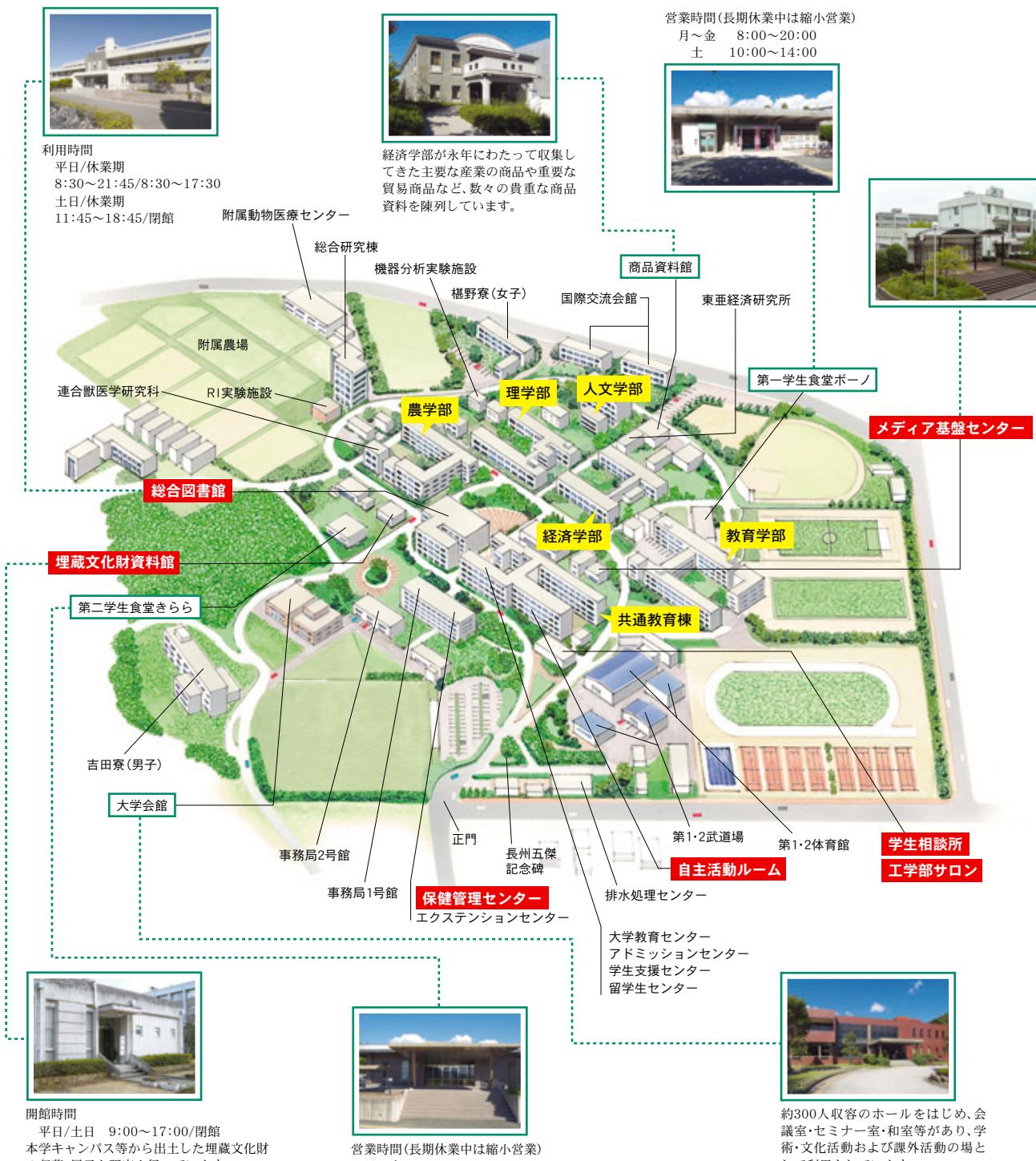
Yoshida Campus

キャンパス施設を活用しよう

山口市にある吉田キャンパスは、5学部が集まる山口大学のメインキャンパス。緑豊かでのびのびとした雰囲気と、設備の整った研究施設という理想的な教育環境で、学生たちは生き生きと学生生活を送っています。

YOSHIDA CAMPUS MAP

山口市／人文学部・教育学部・経済学部・理学部・農学部



※総合図書館、埋蔵文化財資料館、メディア基盤センター、健康管理センター、自主活動ルーム、学生相談所、工学部サロンは「キャンパスの施設紹介します!!」P14.15に掲載しています。

キャンパス施設を活用しよう

小串キャンパス

Kogushi Campus

KOGUSHI CAMPUS MAP

宇部市 医学部



学生食堂(医心館1階)
営業時間(長期休業中は縮小営業)
月～金 8:00～19:00



利用時間
平日/休業期
8:30～21:45/8:30～17:30
土日/休業期
9:15～16:45/閉館



常盤キャンパス

Tokiwa Campus

TOKIWA CAMPUS MAP

宇部市 工学部



学生食堂(福利厚生棟内)
営業時間(長期休業中は縮小営業)
月～金 8:00～20:30
土 11:00～14:00



利用時間
平日/休業期
8:30～21:45/8:30～17:30
土日/休業期
11:45～18:45/閉館



キャンパスの施設紹介します!! (吉田キャンパス編)

「山大をもっと活用して、キャンパスライフをEnjoy!!」

図書館

皆さんは図書館というとどんなイメージを持っていますか？ 本が沢山あって、みんな真剣な顔で勉強している一でも、大学図書館には他にも皆さんのお役に立つ機能があるのです。

【くつろぎの空間】

窓辺に置かれたソファでは、ゆったりと新聞や雑誌を読むことができます。時には窓外の緑が疲れを癒してくれるでしょう。また、観光ガイドコーナーで旅行の計画を立てたり、談話室で友達とお喋りしながら学習もできます。

【自由に利用できるインターネット】

図書館では、皆さんのが自由に利用できるインターネット環境とパソコンを設置しています。調べ物に使うほか、CD付きの参考書でTOEICの勉強もできます。さらに、世界最新の学術情報も入手できます。

【そして、本】

もちろん、図書館には古文書などの貴重書から絵本に至るまで、あらゆる分野の資料が収められています（約165万冊）。

図書館は3キャンパスにあって、平常期の休日や夜間にも利用できます。図書館が持っている多くの図書やさまざまな施設を、皆さんのキャンパスライフにぜひ役立ててください。



▶問い合わせ先

総合図書館利用者サービス係

TEL : 083-933-5182 E-mail : lservice@yamaguchi-u.ac.jp

埋蔵文化財資料館

【「遺跡」上の大学】

山口大学キャンパスが所在する主要5地区（山口市：吉田地区・白石地区、宇部市：小串地区・常盤地区、光市：光地区）はいずれも遺跡の上に所在しています。当館は、大学内で校舎建設などの開発工事が計画された際に、土地の掘削により破壊されてしまう遺跡を保存するための発掘調査を担当しています。また、発掘により出土したさまざまな資料（土器や石器、建物跡など）を調査することにより、山口県の特色ある歴史を解明する研究活動も行っています。

【遺跡情報を公開】

当館の調査・研究成果を大学教育に活用するため、展示室において山口大学敷地から出土した資料を常設展示しています。この他に年に複数回、山口県の考古学研究をテーマとした企画展を開催してい

ますので、お気軽にご来館ください。

【市民講座を開催】

当館の特色ある企画に、「公開授業」という市民講座があります。近年は「弥生土器づくり」や「古代米づくり」など、「実体験から学ぶ古代の知恵」をテーマとしています。市民を対象とした講座ですが、本学生も毎年多数参加しています。皆さんもぜひご参加ください。



▶問い合わせ先

埋蔵文化財資料館 TEL : 083-933-5035

メディア基盤センター

メディア基盤センターは、各キャンパスに設置された3つのセンターで構成され、情報の流通・蓄積・発信等に関する基盤環境の整備・保守管理を担っています。すなわち、

- 1) 高度な情報技術（IT）を活用した教育・研究環境や学内情報ネットワークの整備
- 2) 迷惑メール対策を含む電子メール環境の整備、電子認証の基盤整備
- 3) eラーニング教材などデジタルコンテンツの活用支援および関連するITの研究開発
- 4) 各種サーバーや教育用コンピュータの管理、利用アカウントなどの管理

を主な業務として担当しています。また、情報を扱う部署として情報セキュリティ管理システム

(ISMS)の構築・運用を進め、2008年10月に国際規格ISO/IEC 27001の認証を取得しました。今後とも、センター内の適切な情報管理を実施し、「情報セキュリティ&モラル」の講義の担当をはじめ、学内への情報セキュリティ文化の普及に努めています。



▶問い合わせ先

メディア基盤センター（吉田センター）

TEL : 083-933-5777

E-mail : info-cc@ml.cc.yamaguchi-u.ac.jp

保健管理センター

保健管理センター（学生は通称ホケカンと略称）は、学生と職員の健康の保持・増進を図るために設置されました。山口キャンパスだけでなく、医学部キャンパス、工学部キャンパス内にもあります。診療所としての認可を受けており、内科、精神科、心療内科を主な診療科としています。スタッフは医師4人、看護職8人、カウンセラー1人です。

心身の健康相談や健康診断を通して、病気の予防や早期発見に努め、応急処置や診療を行い、より良いキャンパスライフを送るために援助します。

山口大学学生健康保険組合からの助成で医療費は無料です。平成19年度の受診者数は約8,000人で広く利用されています。また、保健管理センターで対応できない場合は、大学近辺の病院等を紹介しています。

保健管理センターが大学内にあることで、授業を休まなくても良い、医療費が無料である、十分に時間をかけてカウンセリングができるなど、学生にとって利便性が良いこと等が好評です。

電話やメールでも対応しています。また、保護者の方々からの相談や、セカンドオピニオンも受けています。

「困った時はホケカン」です。気軽に利用されることを願っています。



診察をする平田所長（左）

▶問い合わせ先

TEL : 083-933-5160 E-mail : hoken@yamaguchi-u.ac.jp

自主活動ルームとは

山口大学では、「その活動を通して学生の自主性や創造性が培われるような無報酬の課外活動全般」を「自主活動」と定義しています。山口大学学生自主活動ルーム（通称：自主活動ルーム）は、平成18年4月に開設された山口大学生の自主性や創造力をより引き出すための全学的支援部署です。ここでは、主に2つの自主活動の支援を行っています。一つは、全国でも類をみない本校の特色ある教育の一つである「おもしろプロジェクト（学生の自主活動に対する資金支援制度）」の推進です。もう一つは、ボランティア的な地域活動、市民活動への学生参加支援です。自主活動ルームにはおもしろプロジェクトやさまざまな地域活動の情報が溢れています。

す。またスタッフも皆さんの自主活動に関する各種相談に応じています。せっかくの大学時代、講義の履修だけに終わることなく何かをやってみたいなと思ったら、自主活動ルームの部屋を是非のぞいてみてください。一緒に「夢をカタチに」しようではありませんか。



学生たちの自主活動をサポートしているコマの部屋を是非のぞいてみてください。一緒に「夢をカタチに」しようではありませんか。

▶問い合わせ先
TEL : 083-933-5955

悩んだときには学生相談所へ

キャンパス生活に悩みはつきものです。「大学に入学したけれど、目標が見えなくなった」「大学が自分に合っていない気がする」「友だちができない」「初めての一人暮らしでさびしい」「ゼミやサークルの仲間とうまくやっていけない」「失恋して気分が落ち込んでいる」「自分に自信が持てない」「日本の生活習慣になじめない」「バイト先の職員とうまくいかない」「講義についていけなくて、大学へ行くのは気が重い」「将来の進路に迷っている」などなど、数え上げればきりがありません。そんな悩みを、

皆さんと一緒に考えていくところが学生相談所です。自分では対応できることには力を借りてもよいのです。ちょっとした悩みでも遠慮しないで相談してください。

▶問い合わせ先

吉田キャンパス
TEL : 083-933-5042 : 月～金曜日の11時～18時
常盤キャンパス
TEL : 0836-85-9015 : 月～金曜日の11時～18時

工学部サロン（工学部1年生の皆さん必見！）

吉田キャンパス研究1号館1階の工学部サロンでは、皆さんのいろいろな相談にいつでもものれるよう工学部教員OB、大学院生が、待機しております。工学部のいろいろな情報提供も行い、学生交流の場

としても利用できますので、ぜひご利用ください。

▶問い合わせ先
E-mail : saron-e@yamaguchi-u.ac.jp

留学生をサポートします!!



田中 健嗣
学生支援部学生支援課留学生支援室

山口国際交流会館2号館の紹介

留学生向けの新宿舎の完成

2008年10月1日、吉田キャンパスに山口国際交流会館2号館が完成し、外国人留学生向けの宿舎が新たに28部屋増えました。山口国際交流会館2号館は鉄筋4階建ての職員用独身寮であった建物を、民間資金借り入れと篤志家による寄付により改修したもので、部屋にはベッドや机、冷蔵庫、乾燥機付き洗濯機、エアコン、IH調理器などの家電製品も備え付けられています。寄宿料は16,200~20,000円と周辺のマンション等に比べ低く抑えることができ、入居者からもとても好評で、新たに来日した留学生等は快適な住環境のもとで勉学に励んでいます。また、ラウンジも設置されており留学生たちはそこで交流を行ったり、勉強したりしています。ラウンジは篤志家のお名前を付して「黒川ラウンジ」と呼ばれています。

これから留学生の生活面のサポート

山口大学の留学生向け宿舎は、山口国際交流会館2号館（28部屋）の完成に伴い、吉田キャンパスの1号館43部屋と常盤キャンパスの47部屋を合わせ118部屋となりました。しかし、山口大学には現在325人（2008年10月1日現在）の留学生が在籍していますので、留学生用の宿舎はまだまだ十分とはいえません。また、「留学生30万人計画」に向けて、留学生をもっと積極的に受け入れる方針ですので、これからも留学生の生活面のサポートを重視し、新たな留学生向けの宿舎を設置する必要があると思っています。



武 倩
経済学部 特別聴講学生
(中国)

日本での生活にも慣れました

居住者の声

私は2008年10月に入学してから、山口国際交流会館2号館に住んでいます。山口大学に着いたら、留学生支援室の職員に案内していただいて2号館に入居しました。家具や電気製品も揃っていてとても便利で、ユニットバス、キッチン、押入れとバルコニーもあります。部屋はそんなに広くないんですけど、住み心地はとてもいいと思います。



私は母国でいつも両親に頼っていましたので、「一人で日本へ行って、新しい環境に慣れるかなあ」と母は心配していました。でも、山口に着いたら国際交流会館にすぐ入居できるので、アパートを探す手間も掛らないし家賃も高くないし、何より日本の生活環境にすぐ慣れることができ、とってもうれしかったです。



住み心地のよい山口国際交流会館2号館外観



国際交流体験談～

村山 久和

医学部 保健学科看護学専攻 4年

私が山口大学を志望した理由のひとつに保健学科の国際的視野を広めるという教育方針がありました。この4年間を振り返ってみてこの保健学科のセールスポイントは本当だったと感じます。そして、ニューキャッスル大学と山口大学の先生方からの大きなご支援のもとに私はニューキャッスルでの学びを保健学科での国際化教育の総まとめとすることことができました。今回、私は看護学生として学んだことや日本との違いについて報告します。

私は、山口大学と姉妹関係にあるオーストラリアのニューサウスウェールズ州にあるニューキャッスル大学で約2ヶ月間学び、滞在中はニューキャッスル大学のベルチャンバー先生とハリス先生のお宅にホームステイさせていただきました。現地では、私が特に強く関心を持っていた「老年看護学」、「精神看護学」、「緩和ケア」についての授業への参加と、病院での実習が大きな目的でした。今回のオーストラリアでの経験を通して、日本にはないさまざまなサービスについて学ぶことができました。

本学医学部保健学科では、オーストラリア人のチュラーリ教授による講義を通してオーストラリアの看護事情についても学ぶ機会があります。例えば、高齢化に関してはオーストラリアも人材不足で日本と同じ課題を抱えています。しかし、オーストラリアは、高齢者政策の改革をした結果、高齢者医療と福祉の現場が大きく変化したという話を聞いて以来、是非その現場を自分の目で見たいという思いがずっとありました。私は、自分の介護士としての経験からも現地での高齢者福祉の様子を見てみたいと思いました。

さて、ニューキャッスル大学の本学キャンパスは、140ha（山口大学の吉田地区の面積は約



精神科救急部にて（前列中央：筆者）

学科間の国際交流に参加して（ニューキャッスル大学）

70ha）の敷地にあって多くの自然に囲まれており「森の中の大学」と呼ばれ、美しい自然に恵まれたキャンパスとしてオーストラリア国内では有名な大学です。キャンパスはニューサウスウェールズ州北東部に3カ所とシンガポールもあります。私が気に入った施設のひとつに長水路の温水プール付のスポーツジムがあり、その他、留学生の宿舎などの福利厚生施設も充実しています。全学生数は約26,000人で、80カ国からの留学生は3,500人います。看護学科（3年制）は、1,680人の学部生、修士課程に250人と博士課程に40人という大所帯で、その人数は山口大学医学部保健学科看護学専攻の4倍以上です。

講義では、韓国、香港、フィリピン、中国、アフリカ諸国、東欧からの学生たちと出会うことができました。私が知り合ったある留学生たちは、卒業後は地元ニューサウスウェールズ州にて看護師として働くと言っていました。私はまだ訪れたことのない国の人々と、しかも同じ看護職を目指している学生として語り合ったり、その国についていろんな話を聞くことができたりしたことは貴重な経験となりました。

短い期間ではありましたが私は、講義風景など日本との違いを多く経験しました。それらは、学生数の多さだけではなくて、年齢構成にもありました。全看護学生の約4割が社会人学生でその内訳は、すでに医療・福祉の現場で働きながら大学で勉強している学生たちが多く、10代～50代近くまでと幅広く、子連れの学生たちもいてクラスの中は大きな家族という感じでした。しかも国際色豊かな家族でした。さらに、講義に参加して感じた日本との違いは、先生と学生との間で意見交換がとても盛んでした。それは、大講義室でも小グループの講義でも同様、この双方向の意見交換は授業をとても活発なものにしていました。先生とのつながりは、講義以外にも「ブラックボード」というオンラインシステムを中心にしてメールや掲示板でのやりとりも盛んでした。

そして、オンラインでの試験も行われていましたが、これは私にとって非常に興味深かったことのひとつでした。学生は、時に数時間にわたって図書館や家でパソコンのモニターに向かいながら問題を解いていきます。モニターの各ウィンドウはスクリーンセーバーの仕組みで一定時間が来ると次のウィンドウに移っていくので、ひとつのウィンドウにじっくり取り組む時間はおのずと制限され、教科書をじっくり見ながら問題に取り組んでいると時間がなくなってしまう

視野を広めるチャンスです！

しまいます。問題は数百問の中からアトランダムに学生ごとに出題されることもあります。

私は当初このITを使ったさまざまな仕組みは、世界的なITの潮流を受けてのことだと思っていましたが、オーストラリアでは昔から“school of the air”という考え方があることを教えてもらいました。これは、ITが普及するずっと昔に無線機を使用して僻地に住んでいる小学生が授業を受けていたことが大きな基礎になっているということでした。

オーストラリアには僻地看護という分野がありますが、抱える問題は日本と同様非常に厳しいものがありました。私は、“TAREE”という小さなまちでの臨地実習に参加することができ、そこはニューキャッスルからは列車で約3時間かかります。そこでは、入院中の高齢患者への援助と、地域でどのように高齢の療養者とその家族を支えているのかについて救急部から各病棟、退院、そして自宅復帰など次の目的地までの援助過程を学びました。その各援助過程は細分化され、専門の職員が時間をかけて取り組んでいました。小さな病院でしたが、主にアボリジニの人々への相談援助を行う部署や小児科、緩和ケア病棟、重症ケア病棟など完備して、その地方の基幹病院として機能していました。ニューキャッスル大学には僻地看護の教育機関があり“TAREE”にその教育センターがあります。“TAREE”的実習ではニューキャッスルの看護学生や他の看護大学からの学生とアパートでの共同生活をしていました。

ところで、講義の中で興味深いものの一つに精神看護学の校内演習がありました。その演習では、プロの俳優を講師に招き、その俳優が精神病を抱えた患者役となりロールプレイングする演習で、患者役の言動、服装、化粧なども異様なもので、その演技には圧倒されました。

精神看護の実習では、薬物とアルコール依存を抱える人々へのリハビリ教室や、精神救急部での実習がありました。また、精神疾患を抱えている親を持つ子どもへの支援活動では、小児の精神看護にも豊富な経験を持つ専門看護師と共に家庭訪問しまし



Tareeの病院にてお世話になった救急部の皆さんと
(左から3番目：筆者)

た。

緩和ケア実習では、在宅ホスピス療養者向けの外来診療にも参加しました。これは、家族と一緒に病院で医師や看護師のアドバイスを受けたり、相談するもので、一般的な診療室ではなくて広い居間のような居心地のよい部屋で、家庭的な雰囲気の中でじっくり時間を設けて、療養者とその家族と話し合いを持ちます。その場では、療養者も家族も薬に関する多くの質問や、どうしようもない不安や症状についてスタッフとじっくり話し合っていました。

これは限定的な訪問であり、全てのオーストラリアを指しているものではありませんが、最後に今回の学びをまとめると、「ゆとり」と「親密さ」です。これは、オーストラリア人の国民性があるかも知れません。医師も看護師も介護士、社会福祉士、栄養士、臨床で研究しているスタッフなど、医療チーム内の関係がとてもアットホームでした。これは大都市の病院でも“TAREE”的な小さなまちの病院でも同じ雰囲気を感じました。

まず「ゆとり」については、患者とその家族と医療者との時間の過ごし方にも、医療者が働いている環境にも「ゆとり」、「余裕」を感じました。業務の細分化では、看護職ひとつをみても日本には無い役職があり、その役割が明確化されていてその活躍の場が本当に幅広いものだと感じました。

そして、「親密さ」については、私はスタッフ間の連携に私はそれを強く感じました。それぞれの施設では各科間の連携が盛んで、特にがん病棟と院内ホスピス病棟との関わりは貴重な学びとなりました。そして、その連携は病院の中にとどまらず、病院を出て地域にまで続くもので、患者や療養者を「点」ではなくて「線」で支えていく体制についても知ることができました。この連携の各場面ではそれぞれの専門分野の資格を持つ看護師が活躍していました。私は、医学部保健学科の国際交流プログラムを通して患者とその家族をどのように支えていくのかについて深く学ぶことができました。



病棟回診の緩和ケアチームの皆さんに同行
(左から3番目：筆者)

山口大学の広報をサポートしてくれる学生さんたちを

スタッフ紹介

山口大学広報チームの学生スタッフとして、今年の春から人文学部2年生3人で活動を始め、昨秋、新たに人文学部の1年生1人と農学部2年生1人を加え、現在5人で活動しています。

それぞれから一言

小枝：サークルへの取材など急に依頼することも多いですが、快く引き受けてくれるところばかりで、楽しく活動しています。この活動で、友達の輪も広がりました！

島津：雨の日も雪の日もカメラを担いで、山大を駆け回っています！体力的にきついこともありますが、山大生の輝く笑顔を納める時、私も思わず笑顔になっています。

繁富：大体取材は2～3人で行くのですが、たまに予定がそろわざず1人で特攻の時も…。メモをとりつつカメラのシャッターを切るという荒業を身につけました。広報学生スタッフでは味気ないので、何かかわいい名前を考え中です。

安成：山口大学では、学生が自主的に多くの課外活動を行っています。ひとつでも多く記事として取りあげていきたいと思うので、今後ともよろしくお願ひします。

林田：先輩たちの勢いに圧倒されつつ頑張っています！新入生大募集中です!!

主な活動は、大学HPの「キャンパスライフ」
http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~campus/campus_life%20_web/の作成です。取材や編集、HPの更新作業もすべて自分たちの手で行っています。

キャンパスライフの他には、宅配便山口大学などの広報誌にたまに記事を書かせてもらっています。

広報チームの部屋の片隅にパソコンを置いてもらって、授業の合間や放課後に作業しています。

「キャンパスライフ」って？

山大生の日々の暮らしを取材し、学生の視点で山大の魅力を、これから山口大学を受験する高校生や、地域の方々に伝えることを目標にしています。

また、高校などとは違い、自分の所属する学部やサークル以外の情報には意外にうといのが大学です。キャンパスライフが、学生の情報交換の場となり、学生活動の盛り上がりに繋がれ

進め！広報学生スタッフ!!



上段左から人文学部1年	林田	久恵
	農学部2年	安成 啓佑
下段左から人文学部2年	小枝 佑佳	
人文学部2年	繁富 志織	
人文学部2年	島津 梢	

ばと考えています。

5人で分担しながら取材し、翌週水曜日には学生版Weekly Newsとして、「キャンパスライフ」に記事を載せています。

取材した次の水曜日には即行更新というスタイルのため、週によっては、取材日から更新日までが1日しかない週もあり、あわや水曜日に更新できないかもという時もありました。

これからの広報学生スタッフ

人数も少なく、それぞれサークル活動など、学生生活を満喫しているため、正直今年はキャンパスライフの更新作業だけで手一杯でした。しかし、今年は新たに新入生を加え、写真だけでなく、映像を駆使した番組制作などを計画中です。

広報学生スタッフは隨時募集しています。ぜひ一緒に広報活動をしてキャンパスライフをEnjoyしましょう!!興味のある方は、下記にお問い合わせください。

広報学生スタッフとは…

学生参加の広報活動を充実するために作られた組織です。広報チームと連携し、活動しています。

▶問い合わせ先

広報チーム

TEL : 083-933-5964、5007

E-mail : campus@yamaguchi-u.ac.jp

2団体紹介します!! 学生たちのパワーはいつも全開です。

CAMゼミとは?

CAMゼミことキャンパスゼミナールは、学生の有志が集まり高校生の進学サポートを通じて自分自身の可能性を広げることを目的とした「自主ゼミ」としてスタートしました。現在では総勢20人の会員により、オープンキャンパスの企画運営、授業大学、高校生進学サポートを柱として活動しています。

オープンキャンパス?

オープンキャンパスは、進路選択を前にした高校生に大学進学という選択肢を身近に感じてもらい、進路設定の手助けをすることを目的としています。

本年度も多くの高校生に参加して頂き、学生が企画した「学生相談」や「授業大学」により、活気のあるオープンキャンパスとなりました。

授業大学?

CAMゼミメンバー一人ひとりが自らの体験をもとに、「大学」をテーマとした授業を高校生に向けて行っています。その内容はさまざまで、メンバーの個性を活かした授業となっています。

高校生進学サポート

オープンキャンパスや大学訪問などの機会に、直接高校生との対話を通じて、受験に対する不安解消や、進路選択の方法を提案しています。また受験や進路選択を経験した立場から自らの体験談を話し、高校生の進路選択に役立てもらっています。

「キャンパスゼミナール」の活動つて?

今後の活動

活動開始より掲げてきた「高校生が将来を考えるきっかけを提供する」という活動方針を基に、大学の魅力を伝えます。現在は高校生に提供する情報の整理や授業大学の練習を行っており、提供側として、また自分自身の成長を目的として自己を高める努力をしています。高校生が将来を考えるとき、何か一つでも役に立てればという思いでこれからも活動を続けていきます。

▶問い合わせ先

キャンパスゼミナール代表 武田 典晃
E-mail : cam_semi@yahoo.co.jp

AMゼミ



2008年オープンキャンパスにて



2008年3月スプリングセミナーでの活動の様子

プログラムを学ぶ

浦上 直人

(講師)

大学院理工学研究科 情報科学分野)



■ プログラミング言語について

私が担当している「プログラミング演習Ⅰ」について紹介します。物理情報科学科では、プログラミングに関する授業として「プログラミング言語Ⅰ、Ⅱ」と「プログラミング演習Ⅰ、Ⅱ」が開講されています。学生たちは、1年後期から2年前期にかけてこれらの授業を履修します。世の中には、C言語、Fortran、PASCAL、BASICなど、さまざまなプログラミング言語があります。物理情報科学科では、C言語を教えていますが、C言語に限らず、ほとんどのプログラミング言語は、値の入力および出力、条件文、繰返し文など基本的な命令で構成され、共通点も多く存在します。1つのプログラミング言語において、これらの基本的な命令を理解し、使いこなせるようになることが大切です。そうすれば、他のプログラミング言語を習得するのはそれほど難しくはありません。

■ 物理情報科学科でのプログラミングの位置付け

プログラミングは、物理情報科学科、特に情報コースに進む学生にとって重要な授業です。プログラムを利用する専門科目が少なくないからです。私は、専門科目として、数値解析、シミュレーション科学を担当していますが、これらの授業を理解するためには、プログラミング能力が必要となります。ですから、学生は早い時期にプログラミング能力を身に付ける必要があります。

■ プログラミング能力を習得するために

演習では、実際にコンピュータ上で、プログラムを作成し、そのプログラムが正しく動作するか確認します。ほとんどの場合、作成したプログラムは、最初、正しく動作しません。これは、学生のプログラミング能力が未熟だということもあります。しかし、熟練した人でも、修正なしで最初から正しく動作する



プログラミング演習について説明する筆者

プログラムを作成することは難しいからです。ですから、プログラムのミスを修正する能力も必要となります。初步的な文法エラーもあれば、判定条件の間違い、繰返しの回数が足りないなど、さまざまなミスがあります。プログラムを一行一行確認しながら、ミスを見つけ出し、一つずつ修正していきます。時には何時間もプログラムと睨めっこし、この作業を繰り返します。この過程で、学生たちはプログラミングに関するさまざまなことを学びます。苦心してプログラムを完成させることで、プログラミング能力はレベルアップしていくのです。

▶ 学内連絡先

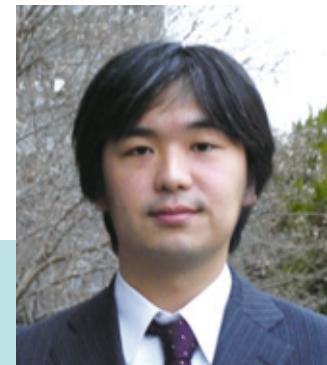
TEL : 083-933-5690

E-mail : urakami@yamaguchi-u.ac.jp

企業を映し出す鏡

米谷 健司

(准教授 経済学部 企業会計講座)



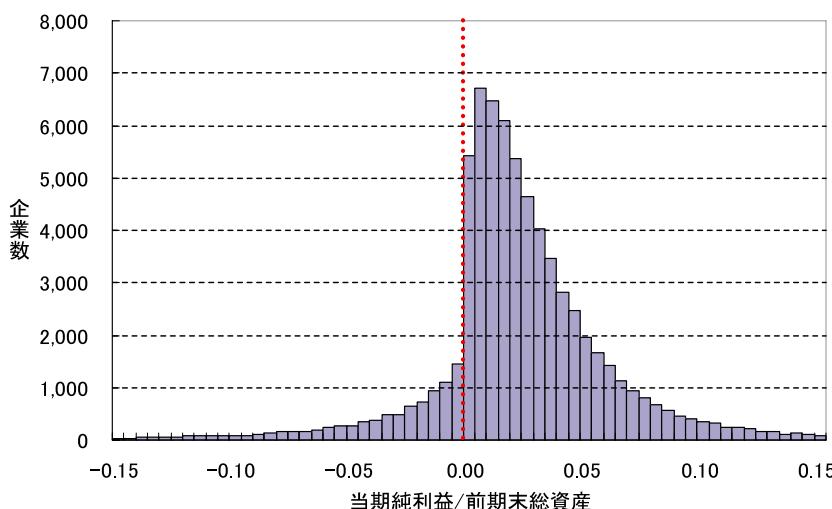
私の専門は会計学です。会計学というと、簿記を連想する人が多いと思います。しかし、簿記は今日の会計の根幹をなす重要な技術ですが、会計学のすべてではありません。会計は、ある経済主体の活動を貨幣額などで計測的に記録・測定し、それを利害関係者に伝達するためのシステムです。会計が対象にする経済主体は、個人や個人のグループ、組織などを含みますが、私の場合、企業という経済主体に関心を持っています。

会計は、企業の経営活動の成果を映し出す鏡であると表現されます。企業を取り巻く経済環境が変化すると、それを映し出す鏡にも変化が求められます。近年、サブプライムローン問題が新聞紙面を賑わしていますが、これも会計と無関係ではありません。サブプライムという住宅ローンはもともと借り手と貸し手の2者間の取引ですが、貸し手がリスク分散のためにその債権を分割・証券化したこと、世界中の投資家がそれに関連する金融商品を手にすることになりました。金融商品の価値は日々変動するので、会計の視点からはその評価・測定が主たる問題

となります。今回のような金融危機を未然に防ぐためにも、あらゆる金融商品の価値を適切に評価・測定し、その実態を投資家に伝達する会計システムが必要になるかもしれません。ただし、会計システムは企業の経営実態を単に映し出すだけでなく、企業の経営実態そのものにも作用することがあります。私たちが鏡を見て、身だしなみを整えることと同じです。図表は、1980年から2007年までの日本の上場企業をサンプルとして、前期末総資産で尺度化した当期純利益のヒストグラム（0.005間隔）を示しています。ゼロを僅かに下回る企業に比べて、それを僅かに上回る企業がかなり多いことがわかります。これは赤字に転落しそうな企業が利益操作によって黒字を達成しているからではないかと考えられています。これが行き過ぎると、粉飾になります。前述したサブプライムローンに関連する金融商品などは時価を入手することが容易ではなく、日々の価値変動を評価・測定するには経営者の見積もりを必要とします。これは結果として利益操作の余地を経営者に与えることになるかもしれません。

このように会計学は会計システムとそれが与える経済的影響について研究する学問といえます。これまで私は会計情報が企業行動や投資家の株価形成にどのような影響を与えるのかを実証的に研究してきました。こうした研究を進めることで、会計システムのあり方を追求することが我々の使命であると考えています。

図表 当期純利益のヒストグラム



▶ 学内連絡先

TEL : 083-933-5576
E-mail : kj-kome@yamaguchi-u.ac.jp

システム科学研究室の研究

和田 直己

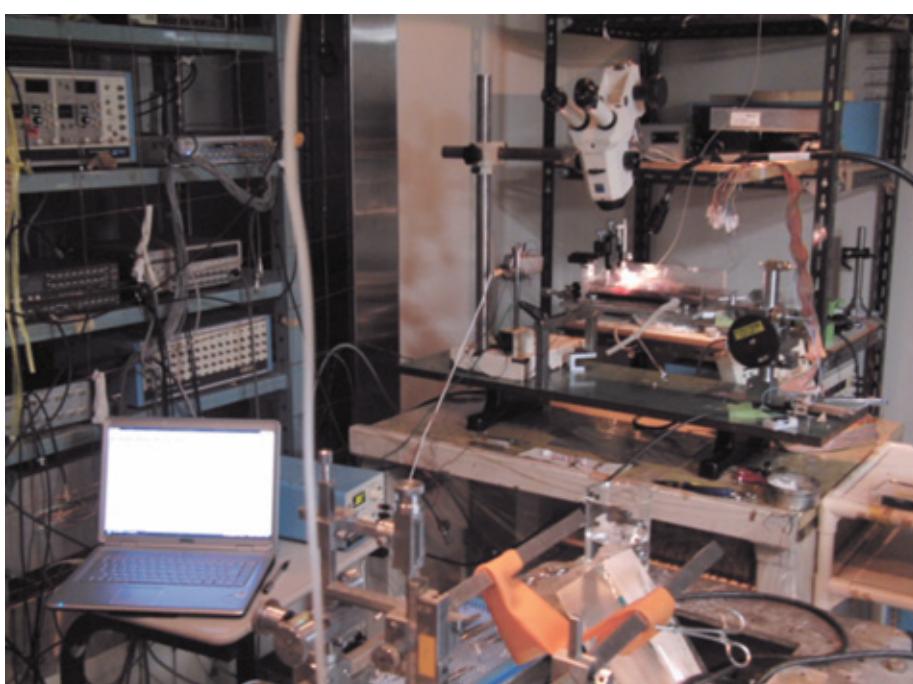
(教授 農学部 生体機能学講座)

西暦2008年はダーウィン生誕後200年で、世界は進化に関する記念行事で盛り上りました。彼はアリストテレスに倣って生き物は変化していくという「進化論」を示してくれました。もはや生物を研究する研究者は「進化」から逃れられません。私も例に漏れず「進化、進化」と言いながら研究を行っています。我々が属する脊椎動物の歴史は今から約5～6億年前に水中で始まったと考えられています。それから2～3億年たって水中で生きる魚の中で鰓を四肢に変えた脊椎動物が出現しました。このとき活躍した遺伝子はHox遺伝子らしいのです。四肢は水中生活への適応の結果（ために？）生まれてきたのです。これは数年前の科学誌「Nature」で報告されました。四肢はそもそも陸上生活のためのものではなかったのですが、やがてその足を使って陸

上を歩き回る両生類が現れました。「上陸」です。その後、両生類から爬虫類、そして哺乳類へ脊椎動物はひたすら陸上をより速く、巧みに移動する方法を獲得するために進化してきました。つまり脊椎動物の進化は移動能力の発達の歴史です。よって上陸は脊椎動物の進化において大きな転換期といえます。

私たちの研究室で行っている研究テーマの1つは「浮力によって体を支えることを要求されない四肢と、体を支えそして移動させる機能を有する四肢の違いをハード、およびソフトの面から解明する」というものです。機能の変化を明らかにしようという試みですから現存する両生類を使うしかありません。今、地球上にいる尾を持った両生類Salamanderの中に遠い昔の記憶が残っていることを期待しつつ研究を進めています。研究結果をどうやってお

伝えしようかと考えました。「Salamanderは進化の歴史を体の中に持っていたことがわかつてきました」ということでよからうと考えました。私たちの研究員は数億年という時間の大きな流れを感じる研究ができるに大きな幸せを感じつつ頑張っております。



Salamanderの歩行運動誘発と前庭入力の効果に関する研究機器

▶ 学内連絡先

TEL : 083-933-5885

E-mail : naomi@yamaguchi-u.ac.jp

教員から寄せられた著書



纏纏厚著『日本军国主义的过去与现在

(日本軍国主義の過去と現在)』

(中国・吉林文史出版社、2008年8月刊、中国語・簡単字、全303頁)

現在、中国、韓国、台湾などで、東アジア諸国間における日本の戦後をも含めた近現代史研究への関心が一段と高まっています。そのなかでも、近年において日本人研究者の研究成果が中国語訳により出版される機会がようやく本格化しているように思われます。中国での出版は、近現代史研究において、その研究成果の交流がますます必要になっている現実にありながら、依然として厳しい審査があり、出版は容易ではありません。本書もまた翻訳完成後、直ぐに出版社が決定していたにも拘わらず、結局出版までに1年間を要することになりました。

さて、本書は台湾の学術雑誌に約1年半にわたり、連載してきた論文をベースにし、近年、日本で発表してきた論文も追加して構成した論集です。構成は、四部（全15章）と結語から成り、「第一部 日本軍国主义的过去」（六章構成）、「第二部 军国主义化的日本」（三章構成）、「第三部 从历史的角度看海外派兵国家—日本」（三章構成）、「第四部 告发海外派兵国家—日本」（三章構成）、「結語 “阿米塔吉新報告書” 中中国・韩国・中国台湾的位置」となっています。内容については、日本の台湾・中国・朝鮮との歴史関係を台湾出兵（1874年）から説き起こし、軍事国家日本の展開過程を追及・整理しながら、如何なる原因から軍事国家としての性格を有することになったのかを、最新の資料・文献を用いながら叙述しています。本書の最大の特色は、戦前の軍事国家日本が敗北によっても完全には清算されず、戦後国家にもさまざまな形で継承されてしまったことを主要な論点として展開していることです。

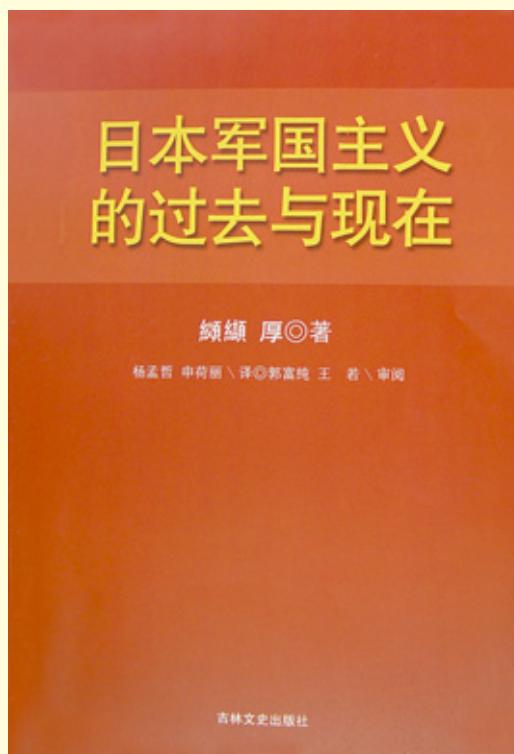
私は、これまでの著作活動のなかで戦前と戦後の連續性を論証することで、戦前日本と戦後日本とを統一的に把握する視点を強く打ち出してきましたが、その視点が本書では具体的な論証によって明確にされています。明治国家成立後、台湾出兵（1874年）という僅か7年後から開始された日本の出兵政策に象徴的に示された軍事国家としての性格を内在させる戦前の政治過程は、敗戦過程においても清算されず、表出の形態こそ違え、戦後日本にも持ち越されました。高度成長経済と米ソ冷戦体制という国内と国外の環境のなかで、戦後日本に内在していた軍事国家としての性格が、

纏纏厚 教授 人文学部 人文社会学科
TEL : 083-933-5278 E-mail : koketsu@yamaguchi-u.ac.jp

1990年代以降、さまざまな形を得て露呈してきた政治過程を多様な論点から指摘しています。

これまでに自著のうち、台湾で2冊と韓国で2冊を翻訳出版していますが、本書は中国での最初の出版です。吉林文史出版社は、日本の近現代史研究に関する重要な資料や文献を手掛ける伝統ある出版社であり、当初から私の論文に注目し、積極的に出版編集作業を担ってくれました。本書の出版を契機に日本人研究者の出版物も多く手がけられることを期待します。

また、本書には、中国社会科学院中日歴史研究センター専門家委員であり、日中近代史研究者として著名な閔捷・大連民族学院大学教授の序文を頂くことになりました。また、翻訳は、台湾教育大学副教授で私の教え子である楊孟哲氏と、私の研究助手である申荷麗女史が担当し、監訳については、旅順博物館館長歴史学者の郭富純先生と副館長の王若先生が実際に丁寧な作業を行ってくれました。いつもながら、多くの支援者に恵まれたことをあらためて感謝しています。なお、本書に関連する講演や報告及び執筆・出版作業の過程で交流した韓国、中国、台湾などの近現代史研究者を中心として構成される「東アジア歴史文化学会」（仮称）の創設を準備中です。



新入生に紹介します。

新入生の皆さん!

これが、山口大学のシンボルマークです!!



YAMAGUCHI UNIVERSITY

山口大学

シンボルマークの意味

シンボルマークは未来をまっすぐに見据えた顔を表現しています。それはまた、個性を大切にした教育・研究を育む学問の芽であり、世界に向かって大きく開いていきます。

シンボルカラーはピーコックグリーンと若葉色。自然をイメージさせるグリーンを基調として、大学の実直さと安心感を表現しています。

シンボルマークの組み合わせや使い方、シンボルマークについてもっともっと知りたいことがありましたら、下記URLをご覧ください。

URL:http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~www-yu/cgi-bin/symbol/vi_top.html

山口大学オリジナルグッズの販売について

山口大学オリジナルグッズは、山口大学生活協同組合にて販売しておりますが、「山口大学まんじゅう」は、大学内の各売店でも扱っております。

「純米大吟醸 長州学舎」は、山口大学生活協同組合、(有)大学文具にて、予約注文にて取り扱っております。

山口大学オリジナルグッズ



純米大吟醸 長州学舎 (4合)
2,500円 (税込)



山口大学まんじゅう (6個入り)
1,150円 (税込)



シャーペンシルボールペン
105円 (税込)



ポストイット
147円 (税込)



ペーパーフォルダ
157円 (税込)



Dr.GRIP
(ボールペン・シャーペンシルセット)
1,260円 (税込)



研究ノート
(RESEARCH LAB NOTEBOOK)
1,470円 (税込)



クリアフォルダ
157円 (税込)



マウスパッド
450円 (税込)



エコバック
250円 (税込)



タオル
525円 (税込)



色紙
210円 (税込)



大内塗り姫だるま
5,775円 (税込)



クリスタル
ペーパーウェイト
5,775円 (税込)

表紙説明

山口大学教育学部美術教育選修・大学院美術教育専修の平成20年度17人による卒業・修了制作展です。平成21年2月19日(木)～2月22日(日)まで山口県立美術館にて開催されました。本年度は出品者も多く、映像作品やパフォーマンスなど新たな表現内容を含む、個性豊かで見応えのある作品および論文を展示することができました。

美術教育選修では絵画、彫刻、デザイン、陶芸、木工、美術史・美術理論、美術教育の7分野の中から、各自2分野を専攻して卒業制作を行っています。

大学院美術教育専修では絵画、彫刻、デザイン、陶芸、木工、美術史・美術理論、美術教育、表現情報分野の中から1分野を選択し、美術教育に関する内容を含む修士論文と、分野によっては作品制作を行っています。学部・大学院ともに、美術や美術教育のための発想豊かで専門性のある研究、多様な表現をめざしています。

(表紙デザイン：平成20年度 教育学研究科修了生 林 賢治)
美術教育教室 HP <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~bijutsu/index2.html>



編集後記

例年、桜の開花が早くなっています。3月の卒業式に咲き始めたこともあります。入学式には散っていたこともあります。いずれにしても桜は入学式によく似合う日本が誇れる美しい花です。

3月号の広報誌は新入生を迎えるための特集を組みました。入学式が終わると慌ただしくオリエンテーションが始まります。そのような忙しい日々の新入生の皆さんに、少しでも山口大学の様子を分かってもらえるように「キャンパス紹介」をしています。先輩の学生さんからのアドバイスも掲載しています。参考になれば幸いです。

キャンパスライフの主役は学生さんです。新入生の皆さんも、1日も早く大学に馴染んで、それぞれの夢の実現に駆け出してください。

(福田 隆眞)

◎山口大学Webページ<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学広報誌第九十号

平成二十一年三月三十一日発行

編集発行 山口大学広報委員会

(総合企画部広報チーム)

住所..山口市吉田一六七七一

電話..(〇八三)九三三一五〇〇七

FAX..(〇八三)九三三一五〇一三

E-mail sh011@yamaguchi-u.ac.jp

(本紙に関するご意見・ご感想をお寄せください)

印刷..(株)マル二

広報委員会委員

村田 秀一 (総務企画担当副学長)

福田 隆眞 (教育学部 総務企画担当副学長補佐)

坪郷 英彦 (人文学部)

菊屋 吉生 (教育学部)

成富 敬 (経済学部)

坂井田 雄一郎 (理学部)

宮田 功 (医学部)

浜本 義彦 (工学部)

藤間 充 (農学部)

近久 博志 (大学教育機構)

何 晓毅 (エクステンションセンター)

藤間 充 (大学情報機構)

三池 秀敏 (アドミッションセンター)

中尾 富永 淑乃 倫彦 (総合企画部広報チーム)

※ 次号は5月29日発行予定です。(5月・7月・11月・3月の年4回発行予定)